

根源的網羅思考による オブジェクト特定と命題,法則の変更

1. はじめに: 生きることと根源的網羅思考 02
 2. 前提となる概念 03- 06
 3. オブジェクト特定と認識 07
 4. 判断,命題、法則の変更 08- 10
 5. おわりに 11
- 参考文献 12

高原 利生 takahara-t@m.ieice.org 2010.10.23

1. はじめに: 生きることと根源的網羅思考

- (対象化の方向で) 生きすることは、現実を認識し変更することである
- 対象化の方向における理想としての世界の認識と変更の極限を求める根源的網羅思考: 事前に構造的に網羅されたものの中からオブジェクトを特定して認識を行い、必要で可能な変更を極限化する[FT10] [TS06]
- 本稿は、根源的網羅思考の1) 今瞬時に必要な態度、2) 時間にかかる事前の認識と変更の検討[FT10] [TS06], のうち2)における、オブジェクト粒度特定、判断(正しい命題)、法則の変更の形式の例を述べる

2. 前提となる概念 2.1 オブジェクト

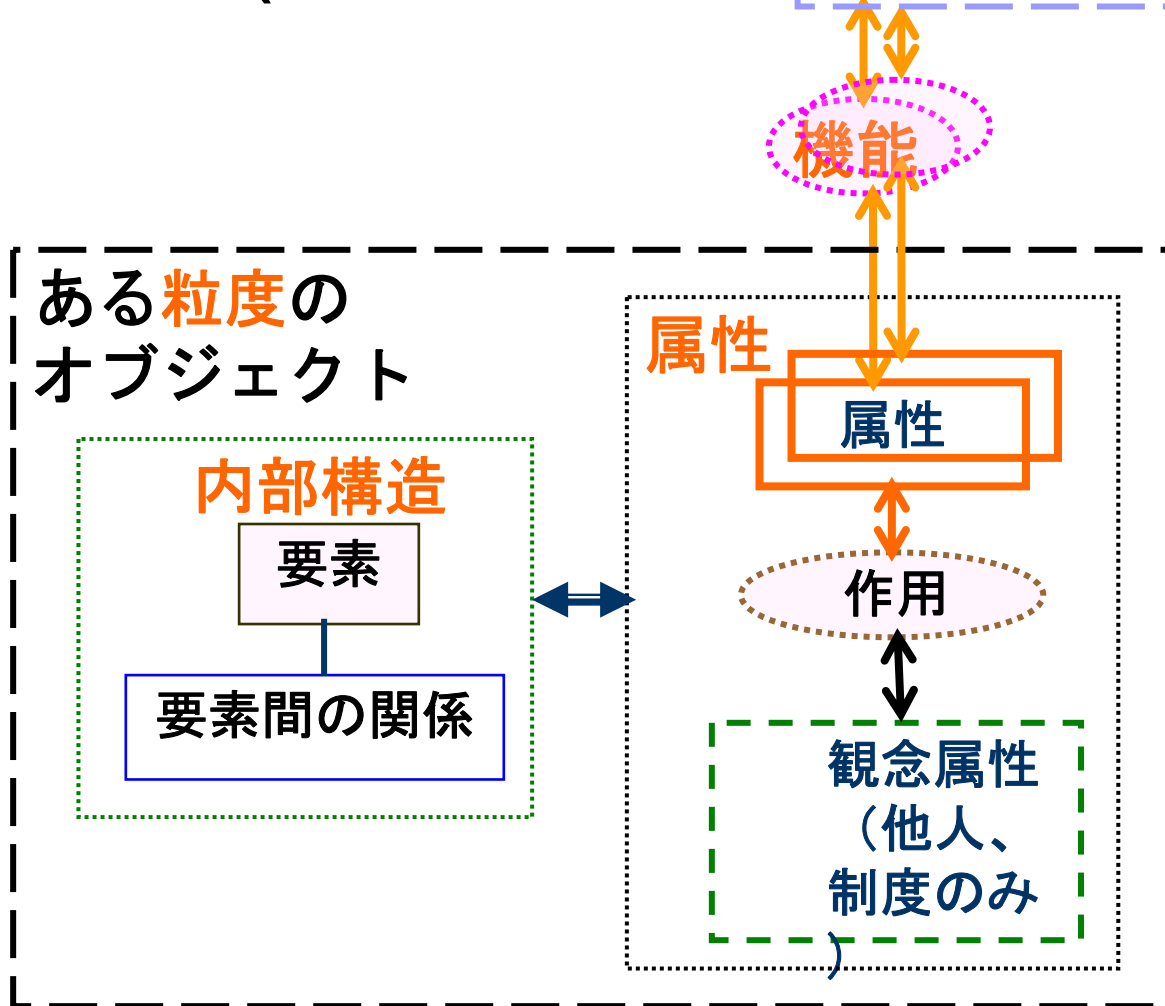
- 認識できるすべての要素が**オブジェクト**_[TS04]。私は三種類 (1) 異なった種類に対しては異なった処理ができ、同じ種類には同じ処理ができる。2) 種類が「あるもの」全部を構造的に網羅できている、そういう分類の種類=型_[TS04]) の要素を認識できる。
 1. **物** : 存在
 2. 「**精神**」「**観念**」: 存在
 21. 物質的実体に担われ認識できる観念内容
 22. 私の精神
 3. **運動** : 相互作用運動は時間軸上では**過程**であり**作用の結果変化**をもたらす

2. 前提となる概念 2.2 オブジェクト世界、粒度

- ある事象は、オブジェクト、属性の集まり=オブジェクト世界
- 粒度 = (何かの)空間的、時間的範囲、抽象の程度
- 密度 = (何かの)内部構造の細かさ
- 機能 = 一次的に運動、プロセスオブジェクトの意味、副次的にオブジェクトの属性の意味
- 構造 = 粒度と内部構造

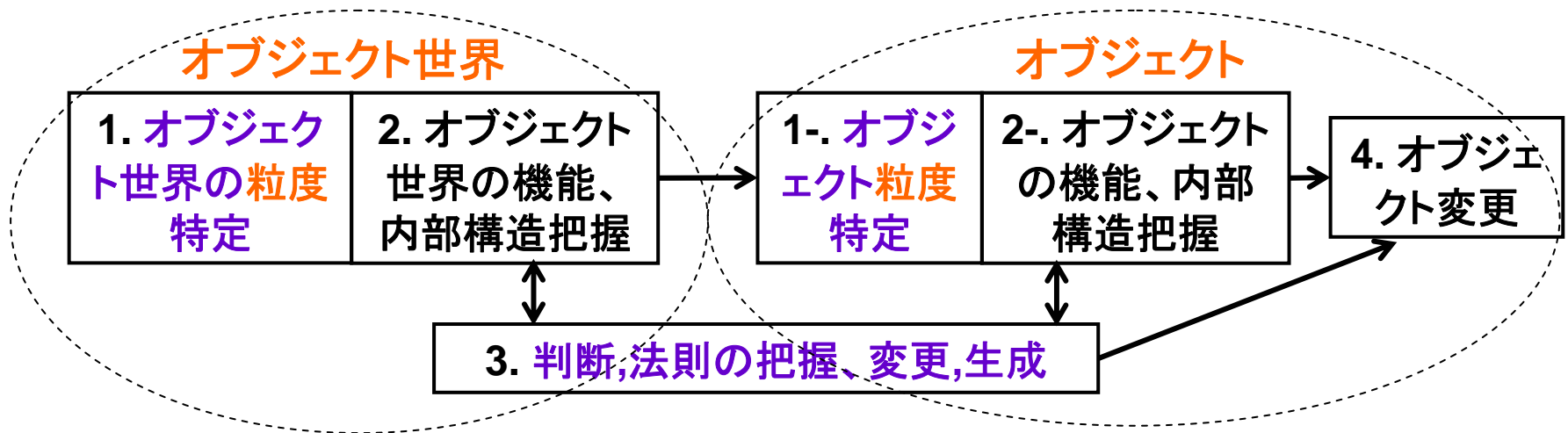
2. 前提となる概念 2.3 オブジェクト構造

オブジェクトの構造(わたしの心を除く) 他のオブジェクト



2. 前提となる概念 2.4 オブジェクト変更の全体像

- 1. オブジェクト世界の粒度特定、2. オブジェクト世界の機能、内部構造把握、3. 判断、法則の把握、変更、生成、1-. オブジェクト粒度特定、2-. オブジェクトの機能、内部構造把握、4. オブジェクト変更、が下記のように進むと一応考える。本質的に同時決定だが実用上、**粒度**が決定的に重要。



3. オブジェクト特定と認識

A. 網羅された様々な粒度,密度の中からオブジェクトまたはオブジェクト世界の**粒度**を特定し、

B. それがどういうものであるか、つまり、

B 1. そのものの**機能,属性**、

B 2. **内部構造**

を認識する。

A. B. は相互作用があり、本質的に同時にしか決定できない。

4.判断と法則 4.1 判断(正しい命題), 法則

- 一つのオブジェクトの認識: 一つのオブジェクトの**存在**(存在オブジェクトがある)、**運動**(存在オブジェクトが運動オブジェクトを持つ)、**運動の結果の変化**、**属性**(オブジェクトが属性を持つ)についての認識
- 複数のオブジェクトの認識: 複数のオブジェクト間の(**運動を含む**)**関係**(オブジェクトがオブジェクトと関係を持つ)、(運動の結果の)**変化**の認識
- **判断(正しい命題)**: 一つのオブジェクトの存在、運動、変化、属性についての認識、複数のオブジェクト間の(運動を含む)関係、変化の認識の、主部、述部からなる形式
- **法則**: 一つのオブジェクトの変化、複数のオブジェクト間の(運動を含む)関係、(その結果の)変化の認識の、インプット、アウトプットからなる形式

4.判断と法則 4.2 判断の変更の形式の一部

それぞれと全体の粒度を変化させる

(主部と述部とその構造をそのままにして変更)

1. 判断の主部、述部の属性を網羅しそれぞれを、変化させる。
2. 削除する(より大きな粒度の主部、述部に置き換える)
3. 追加する(より小さな粒度の主部、述部に置き換える)(殆どこうする必要がある)

4. 判断の主部、述部について、同じ述部が成立する主部を網羅し新しい主部とする(より大きな粒度の主部に置き換える)

(主部と述部の関係変更の例)

5. 4ができると主部と述部は、同じ内容となり、言い換えとなる場合がある。そうして主部と述部を入れ替えると定義になる

(例:存在は他の存在と相互作用するという命題から存在の定義を作る、

例:商品は属性の集合体だという把握を一般化し、商品を存在またはオブジェクトの定義に拡張)

4.判断と法則 4.3 法則の変更の形式

法則のインプット、アウトプットの要素、条件の要素を網羅し、それぞれと全体の粒度を極限まで変化、削除、生成する

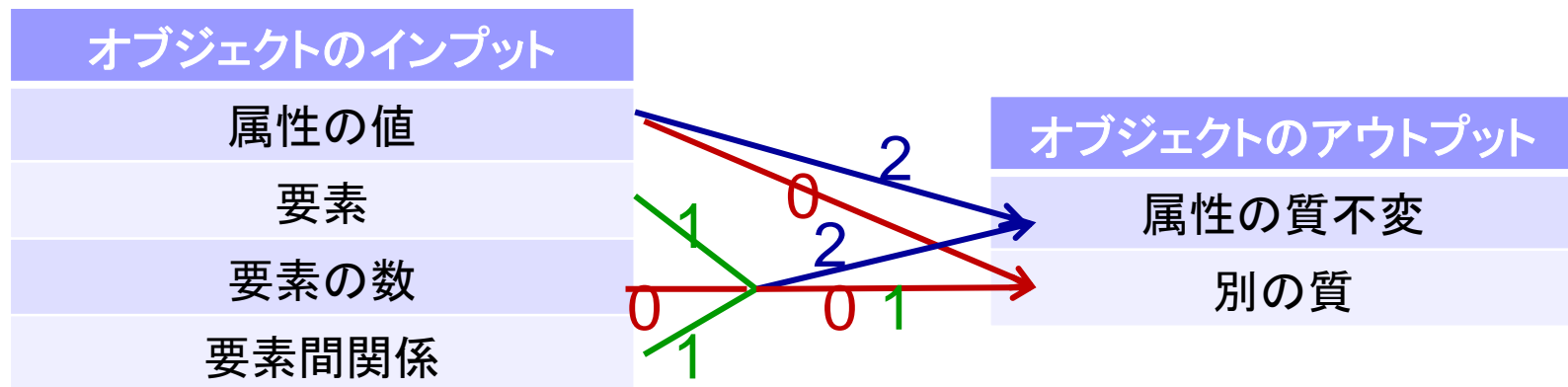
(例: 質量転化の法則の拡張_[F09]: 量質転化の法則は、オブジェクトの属性の量の変化によって、オブジェクト全体が別の質に変化するという法則 0

第一の拡張: 属性と構造、質転化の法則 1

要素、要素間関係の変化が全体の質変化をもたらすことが加わる。

第二の拡張: 属性と構造、質的, 非質的変化の法則 2

アウトプットが質変化以外であることが付け加わる)



5. おわりに

- 世界の認識と変更の極限を求める**根源的網羅思考**^[F10]の一部としてオブジェクト特定、判断、法則の形式を述べた。これは個別科学に共通の形式の一部でもある。この形式の体系的把握は今後の課題である。
- これら対象化の方向の他、対象化と一体化の統合の方法、「正しさ」を保証する方法の探究も、今後の課題である。

謝辞

Dr. Ellen Domb, Dr. Shahid Saleem Ahmed Arshad, 中川徹教授, 森久光雄博士, 故鈴木博之博士のコメント、励ましが支えであったことを記し、各位にあつく感謝申し上げます。

■ 参考資料

- [TS04] 高原:「オブジェクト変化の型から見えるTRIZの全体像－機能とプロセスオブジェクト概念を基礎にした差異解消方法 その3」第四回TRIZシンポジウム, 2008.09. <http://www.osaka-gu.ac.jp/php/nakagawa/TRIZ/jpapers/2009Papers/TakaharaTRIZSymp2008/Takahara-TRIZSymp2008-090708.htm>、
- [FT09] 高原:「弁証法論理の粒度,密度依存性」FIT2009. 2009.09. http://www.sofken.com/FIT2009/pdf/D/D_046.pdf
- [TS05] 高原:「TRIZという生き方?」, 第5回TRIZシンポジウム, 2009.09. <http://www.osaka-gu.ac.jp/php/nakagawa/TRIZ/jpapers/2010Papers/Takahara-TRIZSymp2009/Takahara-TRIZSymp2009-100918.htm>
- [FT10] 高原:「TRIZと生き方における対立物の構造と根源的網羅思考」, FIT2010, 2010.09.
- [TS06] 高原:「理想的TRIZ TRIZという生き方 その2」, 第六回TRIZシンポジウム, 2010.09
- [TKHR] 高原利生ホームページ, http://www.geocities.jp/takahara_t_ieice/